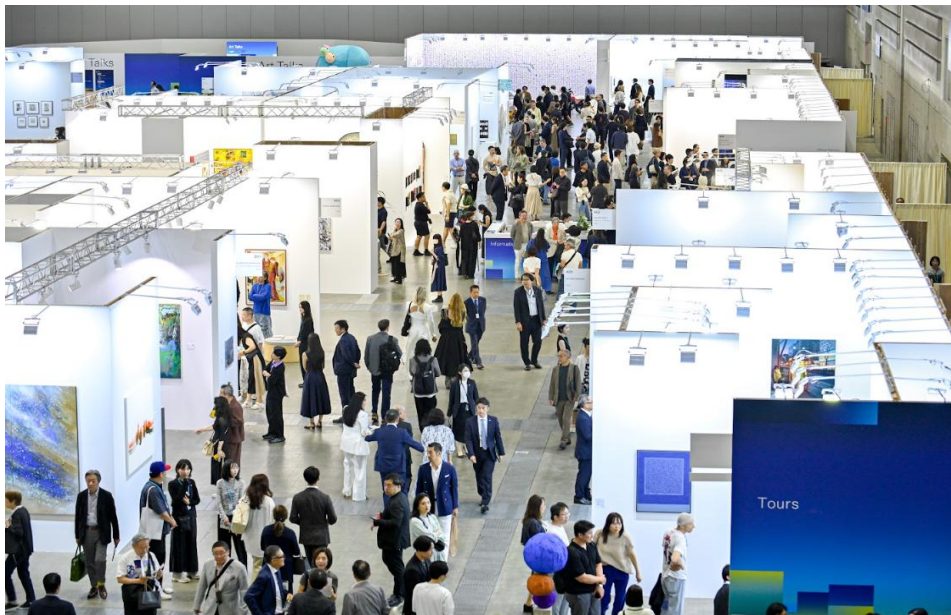


プレスリリース

2026 年 9 月 15 日
Tokyo Gendai 広報事務局

第 4 回「Tokyo Gendai」が盛況のうち閉幕

国内外のアート関係者が集い、日本の現代アートシーンに新たな活気



- 第 4 回「Tokyo Gendai」には、世界各地からコレクター、キュレーター、文化・トレンドを牽引する人々が集結
- 招待客向けプレビューおよびヴェルニサージュを含め、4 日間の会期を通じて好調な作品販売と高い来場者数を記録。充実したパブリックプログラムおよび VIP プログラムを通じ、来場者が日本の現代アートへの理解と関心を深める機会を提供
- 2027 年 11 月に東京・有明にて開催される、第 5 回「Tokyo Gendai」のイベント概要を発表

第 4 回「Tokyo Gendai」は、今年も多くの来場者を迎え、作品販売も好調を記録するなか、9 月 13 日（日）閉幕しました。国内外のアート関係者・アートファンを会場に迎え、日本そして世界の現代アートシーンが持つ活力と独創性を体感する機会を提供しました。第 4 回となった今回は、世界各地のギャラリー、美術館や文化施設、コレクター、アート支援者が一堂に会し、国際的なネットワークをさらに広げるとともに、日本の文化的土壌に根差した新たなコラボレーションを生み出しました。9 月 10 日（木）から 13 日（日）にかけて、世界のアート界を牽引する関係者がパシフィコ横浜に集い、会場内で展開された多彩なプログラムや、卓越したキュレーションによる展示を楽しみました。オフィシャルパートナーには、4 年目となるプリンシパルパートナーの株式会社三井住友フィナンシャルグループ（以下、SMBC グループ）を筆頭に、複数の企業が参画しました。

今年は、世界各地から 69 ものギャラリーが集結。大型のサイトスペシフィック・インスタレーションやパフォーマンスを紹介する特別展示が会場にさらなる活気をもたらしました。各セクターでは、何世紀にもわたって受け継がれてきた工芸の伝統を新たな視点で捉え直す作品から、最新のデジタル技術を用いた実験的な作品まで、日本の創造性を持つエネルギーと幅広さを体現する意欲的な展示が披露されました。招待客向けプレビューおよびヴェルニサージュを含め、4 日間の会期中には、国内外のコレクターやキュレーターが日本のアートシーンを直接体験するために集い、意義ある新たな関係が数多く生まれました。

充実した VIP プログラムでは、日本を代表する美術館や芸術文化施設を訪れる特別な機会を提供。また、毎年恒例のトークプログラム「Art Talks」や「キュレーター・シンポジウム」には、アート界を牽引する有識者が登壇し、重要な対話と意見交換が行われました。さらに、フェアの開催に合わせて、日本各地のギャラリー、美術館、文化施設でも多彩なプログラムが展開され、都市が創造の拠点であることを改めて印象づけるとともに、アートシーン全体を活気づける機会となりました。

第 4 回「Tokyo Gendai」の閉幕は、節目となる第 5 回に向けた新たな章の幕開けでもあります。第 5 回「Tokyo Gendai」は、2027 年 11 月 4 日（木）から 7 日（日）まで、東京の有明 GYM-EX にて開催されることが決定しました。都心に位置する特別な会場への移転に加え、開催時期を 11 月に変更することで、季節の祭りやさまざまなアートイベント、美しい紅葉に彩られ、東京、そして日本全体が格別な文化的活気に包まれる時期にフェアを開催します。国内各地で多彩なイベントが催されるこの特別な季節に、「Tokyo Gendai」は日本の文化シーンをさらに力強く盛り上げていきます。

■主催者および関係者コメント

Tokyo Gendai フェアディレクター 高根枝里

「フェアの開催を重ねるごとに、皆様から素晴らしい反響をいただいていることを大変うれしく思います。Tokyo Gendai は毎年、日本のアートシーン全体が喜びに包まれる特別な機会となっています。今年も、会場内で数多くの新たなつながりやコラボレーションが生まれていく様子に、大きな刺激を受けました。次回開催に向けて、世界のアートコミュニティの皆様、活気あふれる日本の卓越したアートシーンを体感していただく機会を、さらに充実させていきたいと考えています」



Tokyo Gendai 共同創設者 マグナス・レンフリュー (Magnus Renfrew)

「Tokyo Gendai が今年も成功を収め、日本が国際的なアート市場において、ますます重要な役割を担っていることが明確になりました。今や日本は、現代アートに触れるうえで欠かせない場所となっています。Tokyo Gendai は、このアートシーンを形づくる卓越したアーティスト、ギャラリー、美術館・文化施設に光を当て、その魅力を発信しています。2027 年は、この勢いをさらに加速させ、文化イベントが最も充実する 11 月に開催することで、日本各地がひととき創造的な活気に満ちるこの時期を、ともに盛り上げてまいります」



■コレクターおよび VIP 参加者

第4回「Tokyo Gendai」には、52カ国以上から若手そして著名コレクター等が来場したほか、世界を代表する美術館・文化施設の関係者が参加しました。

＜参加キュレーター（一部）＞

ブルックリン美術館近現代美術キュレーターの**キンバリー・ガント**、シアトル美術館チーフキュレーターの**フランク・フェルテンズ**、タテウチ財団日本・韓国美術キュレーターの**アーロン・リオ**、ヒューストン美術館アジア美術部門キュレーター兼部門長の**ブラッドリー・ベイリー**、ダラス美術館ルーペ・マーチソン現代美術キュレーターの**ヴィヴィアン・リー**、森美術館館長の**片岡真実**、国立新美術館館長の**菅谷富夫**、横浜美術館館長の**蔵屋美香**、福岡アジア美術館館長の**岩永悦子**、弘前れんが倉庫美術館館長の**木村絵理子**、川口市立美術館館長の**建畠哲**、アーツ前橋特別館長の**南條史生**、森美術館シニア・キュレーターの**徳山拓一**、東京都現代美術館学芸員の**小高日香理**、インディペンデント・キュレーター / 美術評論家で、第一回 AMA Artist Award の審査員を務めた**長谷川祐子**など。来場したキュレーターの多くは、キュレーター・シンポジウムにも参加しました。

＜参加 VIP ゲスト（一部）＞

VIP ゲストには、コレクター / Sunpride Collection 創設者の**パトリック・サン**、コレクター / Akeroyd Collection 創設者の**シェーン・アケロイド**、コレクター / ニューミュージアム評議員兼国際リーダーシップ評議会共同議長の**エヴァン・チャウ**、コレクター / 慈善家で Devi Art Foundation 共同創設者の**レカ・ポッター**、森美術館理事長の**森京子**、株式会社大林組取締役会長の**大林剛郎**、Millennium Management アジア太平洋地域 CEO の**ジュリア・レイスキ**、Razor 創設者の**カールトン・カルヴィン**、精神科医・コレクターの**高橋龍太郎**、コレクターの**桶田俊二・聖子**、コレクター / 株式会社 GRAPES CEO の**竹内真**、コレクターの**宮津大輔**、Seiga Asset Management 創設者兼最高投資責任者の**有澤敬太**、My Humble House Group 会長の**Ellie Lai**、ファッションデザイナーの**シモーネ・イラニ**、その他、**麻生和子**、**保科卓・和賀子**、**笹川直子**、**クラウディア・パン**、**ティモシー・タン**、**ヤオ・チェン**、**サロニ・ドシ**、**マックス・ジャン**、**キム・ドンウン**、**青木淳**、**永山祐子**、**三宅健**、**ホラン千秋**、**浅野忠信**など。

また、**ライアン・ガンダー**、**ローレン・クイン**、**片山真理**、そしてクチュールデザイナーでもある**イリス・ヴァン・ヘルペン**ら多数のアーティストが参加しました。

キンバリー・ガント（ブルックリン美術館近現代美術 キュレーター）のコメント

「Tokyo Gendai は素晴らしい体験でした。日本のキュレーターの方々と、彼らが取り組んでいる素晴らしいプロジェクトについて意見を交わすことができただけでなく、地元のアーティストとも出会うことができました。私にとって新しい土地を訪れることは、いつも新たなアーティストや芸術の潮流、文化的な体験に触れる機会でもあります。今回、このフェアで過ごした数日の間に、まさにそうした経験をすることができました。ここで始まった対話をさらに深めるためにも、ぜひまた訪れたいと思っています」

森京子 (森美術館 理事長) のコメント

「会場を巡りながら、国内外のギャラリーやコレクター、そして多様な作品との出会いに、東京のアートシーンの広がりと活気を感じました。こうした交流が積み重なることで、東京がより魅力あるアートの拠点となっていくことを願っています」

パトリック・サン (Sunpride Collection コレクター兼創設者) のコメント

「Tokyo Gendai は、アジアの現代アートをつなぐ重要な交流拠点として、その存在感を一層高めています。植物から着想を得たコンセプトのもと、紙を用いた作品に特化した新セクター『Miki 'Trunk』から、デジタル表現を紹介する『Tane 'Seed』まで、キュレーションセクターを拡充しました。これにより、フェアは新たな方向へと成長するとともに、世界各地のコレクターと地域のアートコミュニティとの間に、活気ある交流を生み出しました。Tokyo Gendai はこの地に着実に根を張り、アジアのアートシーンに新たな躍動をもたらしています」

片山真理 (アーティスト) のコメント

「昨年の Tokyo Gendai では、トークをきっかけに新しい出会いがあり、それがその後のニューヨークでの活動へとつながっていきました。一年後の今年、今度は VIP ラウンジに作品を展示していただき、また新たな出会いや対話の時間を持つことができたことを、とても嬉しく思います。アートフェアは作品と出会う場所であると同時に、人と人との出会いから思いがけない未来が生まれる場所でもあるのだと、あらためて感じました。ここで生まれた出会いが、またどこへつながっていくのか楽しみにしています」

宮津大輔 (コレクター) のコメント

「今年は、参加ギャラリーの幅が良い意味で広がっている点が印象的でした。一例として、一般的な日本のアートフェアでは中々叶わないアジアの特色あるギャラリーの参加を挙げておきたいと思います。また、フェア全体で展開されていた個展形式の展示においては、現代のみならず近代日本を代表する彫刻家による代表作をじっくり見る機会にも恵まれ、海外からの来場者に幅広い日本のアートを深く知ってもらう契機になったのではないかと考えております」

■セールス

フェア会期を通して売れ行きは好調で、会期を通じて好調な作品販売が記録され、実りある商談や対話が数多く生まれたとの声が寄せられました。

<セールスハイライト> *

- **Sundaram Tagore Gallery** (ニューヨーク、シンガポール、ロンドン) は、VIP プレビューにおいて、千住博による大規模な「Waterfall」シリーズの絵画 2 点を、それぞれ 41 万米ドルと 62 万米ドルで販売。また、会期中にはロバート・ナトキンとミヤ・アンドウの作品も販売しました。
- **KOTARO NUKAGA** (東京) は、VIP プレビューおよび事前販売を通じて 20 点を超える作品を販売しました。松山智一の作品を 25 万～30 万米ドル、ホセ・パルラの作品を 6 万～10 万米ドル、アーニー・モリスの作品を 10 万～15 万英ポンド、森本啓太の作品 2 点を各 4 万～6 万米ドルで販売

しました。また、1 万米ドル未満の新進・中堅アーティストの作品にも高い関心が寄せられ、マイケル・リキオ・ミング・ヒー・ホー、井上七海、飯川雄大、上田暁子、保良雄、木津本麗、松川朋奈らの作品が注目を集めました。

- **Pace Gallery** (ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、ジュネーヴ、ベルリン、ソウル、東京) によるローレン・クインの作品を集めた個展形式のブースは、コレクターから大きな関心を集め、フェア初日のうちに大半の作品が販売されました。
- **ア・ライトハウス・カナタ** (東京) は、武井地子、三原研、三輪彩音、長谷川幾与、加藤貢介、高原秀平、松田啓佑による主要作品 10 点を、北米、ヨーロッパ、アジアのコレクションに販売しました。
- **Upsilon Gallery** (ニューヨーク、ロンドン、ミラノ、香港) は、VIP プレビューにおいて、オズヴァルド・マリスコッティとニコラス・カロネの作品を 5 万～6 万米ドルで販売しました。
- **CON_** (東京) は、VIP プレビューにおいて、山中雪乃による絵画 5 点以上を個人コレクションに販売しました。価格はいずれも 1 万米ドル弱でした。
- **HARUKAITO by island** (東京) は、VIP プレビューにおいて、30 万～300 万円の価格帯で出品された 谷口正造の全作品を完売しました。

*作家名の日本語表記は、Tokyo Gendai の紹介記事および公式作家情報に基づいています。

■ ギャラリーの反応

服部今日子 (Pace gallery バイスプレジデント / ニューヨーク、ロンドン、ソウル、ジュネーヴ、香港、ロサンゼルス、東京、ベルリン) のコメント

「Tokyo Gendai 2026 の成果に大変満足しており、VIP プレビュー当日には非常に好調な販売実績を上げることができました。また、今回のフェアは、ローレン・クインの作品を日本でより幅広いオーディエンスに紹介する素晴らしい機会となりました」

石井孝之 (タカ・イシイギャラリー 創設者 / 東京、京都、前橋) のコメント

「Tokyo Gendai は年々国際的に知名度が上がってきています。来年 11 月の開催が盛り上がることは間違いないでしょう」

サンダラム・タゴール (Sundaram Tagore Gallery 創設者 / ニューヨーク、シンガポール、ロンドン) のコメント

「私たちにとって、Tokyo Gendai は大きな成功となりました。ブースの作品はほぼ完売し、売上高も 6 桁台 (米ドル) に達しました。また、会期を通じて東京を拠点とするクライアントの皆さまと再会できたことを、大変うれしく思います。会場は非常にポジティブな雰囲気にも包まれ、コレクター、美術館・文化施設、アート関係者の皆さまから力強いエネルギーを感じました。Tokyo Gendai は、アジアの現代アートに触れるうえで、ますます魅力的な場として存在感を高めています。その継続的な発展と盛り上がりにも携われたことを、大変うれしく思います」

伊藤悠 (HARUKAITO by island 創設者 / 東京) のコメント

「Tokyo Gendai 2026 への参加は、私たちにとって非常に実りある経験となりました。谷口正造の個展形式の展示を行い、VIP プレビューの日のうちに出品作品すべてがそれぞれのコレクターのもとへ迎えられたことを、大変うれしく思っています。販売面での大きな反響はもちろんですが、それ以上に、日本国内外の新しいコレクターやキュレーター、アート関係者の方々に作品をご覧いただき、谷口の制作についてさまざまな対話が生まれたことを、とても意義深く感じています。このような新しい出会いや関係が生まれる場をつくってくださった Tokyo Gendai に、心より感謝しています」

額賀古太郎 (KOTARO NUKAGA 創設者 / 東京) のコメント

「VIP プレビューから最終日まで、会期を通して好調なセールスが続きました。国内外のコレクターから、4 日間を通じて非常に良い反応をいただけたことをうれしく思います」

レア・ズーウェイ・リー (A2Z Art Gallery 創設者 / パリ) のコメント

「Tokyo Gendai は、私たちのアーティストをアジアおよび世界各国のコレクターに紹介するうえで、活気にあふれた 質の高いプラットフォームとなりました。会期を通じて 8 点の作品が成約したことを、大変うれしく思っています。来場者やコレクターの方々と対話から多くの刺激を受けました。今回のフェアをきっかけに生まれたこうした対話を、今後もさらに深めていけることを楽しみにしています」

菊竹寛 (Yutaka Kikutake Gallery 創設者 / 東京) のコメント

「フェア会期を通じて会期終盤までセールスも続き、本フェアに参加する意義の大きさを感じました。Tokyo Gendai が、日本のマーケットの成長を後押しする重要な機会であることは間違いありません。アジアをはじめ個人的にも関心を持つ海外ギャラリーのブースを見られたことも貴重な機会となりました」

アリスティデス・ゴンサレス＝ビヒル (W-galeria インターナショナルディレクター / ブエノスアイレス、マルドナド) のコメント

「Tokyo Gendai への参加は、私たちにとって非常に実りある経験となりました。マックス・ゴメス・カンレの作品のひとつが、日本を代表するコレクターのコレクションに迎えられたことを、大変うれしく思っています」

マルセロ・ジムラー (Upsilon Gallery 創設者 / ニューヨーク、ロンドン) のコメント

「Tokyo Gendai での展示に大きな反響をいただき、大変うれしく思います。プレビューには、オズヴァルド・マリスコッティとニコラス・カロネの作品が成約に至り、皆さまの高い関心を実感しました。また、コレクターや美術関係者の方々と有意義な対話を重ねられたことで、非常に実りある機会となりました。Tokyo Gendai は、これらのアーティストをアジアの新たなオーディエンスに紹介するうえで、重要なプラットフォームとなっています」

アリサ・バグドナイテ (Dom Art Gallery 創設者兼チーフキュレーター / ドバイ) のコメント

「Tokyo Gendai には、新たな発見を促す雰囲気があります。特に、東京の皆さまの好奇心と、新しいアーティストとの出会いを積極的に受け入れる姿勢に、大きな手応えを感じています」

■ Hana Artist Award

Tokyo Gendai はプログラムの一環として、今後 10 年にわたり成長と変化を遂げ、国際的に評価される可能性を持つ、キャリア形成の途上にあるアーティストの支援に取り組んでいます。「Hana Artist Award 2026」は、AWASE gallery が出展した**ソー・ソウエン**が受賞しました。今回の受賞者は、「Observer」のキュレーター兼アトライターである**エリサ・カローロ**、森美術館シニア・キュレーターの**徳山拓一**、コレクターの**モニーク・ロング**からなる審査員によって選ばれました。Hana Artist Award は **ArtSticker** のサポートを受け、開催されました。

受賞作家や作品、選考委員によるコメントなどの詳細は、[こちら](#)をご覧ください。

■ プログラムおよびサテライトイベント

第 4 回 Tokyo Gendai の開催ウィークには、世界各地から訪れるコレクターを迎え、多彩なツアー、関連プログラム、特別イベントが実施されました。現代アートと豊かな自然が織りなす独自の魅力で知られる瀬戸内地域を巡る少人数制のガイドツアーでは、直島、犬島、豊島からなる世界的に著名な「ベネッセアートサイト直島」を訪れました。また、著名なアーティストである杉本博司が構想した「江之浦測候所」のプライベートツアーでは、小田原の海岸線を望みながら、アート、建築、自然景観が美しく融合する唯一無二の空間を体験する機会を提供しました。フェア開催期間中には、日本を代表するギャラリーや美術館・文化機関が多彩な展覧会やイベント、関連プログラムを開催したほか、活気あふれる祝賀イベントやイブニングレセプションが各地で催され、この特別な一週間を盛り上げました。さらに、森美術館「ロン・ミュエク」展、国立新美術館「ルーヴル美術館展 ルネサンス」展、東京国立近代美術館「杉本博司 絶滅写真」展など、すでに国内で人気を博している注目の展覧会への特別入場や UESHIMA MUSEUM の特別ツアー、東京・天王洲で開催される回遊型アートイベント「TENNOZ ART WEEK 2026」でのイブニングレセプションが行われました。

第 5 回「Tokyo Gendai」は、2027 年 11 月 5 日から 7 日まで (VIP プレビューおよびヴェルニサージュは 11 月 4 日)、東京の有明 GYM-EX にて開催されます。

■ オフィシャルパートナー一覧

Principal Partner: SMBC グループ

Official Premium Partner: DIOR

Official Champagne Partner: Perrier-Jouët

Official Beauty Partner: ポーラ

Official Fair Partner: LALIQUE、LED TOKYO

Official Supporting Partner: 寺田倉庫、The Breakthrough Company GO、ArtSticker、NOT A HOTEL、SOHO HOUSE

Official Media Partner: ハースト婦人画報社、日本経済新聞社

Official Food & Beverage Partner: MAISON CINQUANTECINQ

Official Lounge Partner: Vitra

Official Hotel Partner: ウェスティンホテル横浜

SMBC グループについて

SMBC グループには、時代とともに芸術活動を支えてきた長い歴史があり、各種イベントへの協賛や、本部ビルを活用したアート作品の展示などを通じて、アーティストの表現活動支援や、作品を身近に感じていただける機会の提供に努めてまいりました。2026 年度からの新たな中期経営計画においても、社会的価値創造の取組を一層高度化することを掲げています。SMBC グループは、これからもアートの魅力を広くお伝えし、創造性が社会に新たな価値をもたらす機会を支えながら、人々の幸せがあふれる社会の実現に貢献してまいります。

DIOR について

ディオールの創設者である、クリスチャン・ディオールは、芸術を愛するコレクターであり 23 歳の時に友人と共にギャラリーを開きました。1946 年のメゾン創設以来、彼は自身の夢を魅力的なクリエイションに昇華させ、10 年間でエレガンスの常識を革命的に変えました。彼の後継者たちは芸術との大胆で革新的なつながりを通じて、その情熱と遺産を受け継いでいます。

Perrier-Jouët について

ペリエ ジュエは 1811 年にエペルネで創立されたフランス屈指の歴史あるプレステージ・シャンパーニュメゾンです。シャルドネを基調としたエレガントで花のようなスタイルが特徴。1902 年にエミール・ガレが描いたジャパニーズ・アネモネ（秋明菊）がメゾンの象徴になり、以来、クリエイティブな才能との共同制作を通じて自然とアートへの深い敬意を体現しています。

ポーラについて

ポーラは「Science. Art. Love.」の理念に基づき人生をより豊かにする美しさを追求します。また、最高峰ブランド B.A は “人の可能性は広がる” というポリシーのもと、時間や年齢にとらわれず自分史上最高を目指す生き方を提唱しています。

■ Tokyo Gendai について

Tokyo Gendai は、国際的に著名な現代アートギャラリーが一堂に会して、アート作品の展示・販売を行う世界レベルのフェアで、2023 年 7 月に初開催されました。アート作品の販売だけでなく、日本と世界のアートシーンをつなぎ、ギャラリーやアーティスト、コレクターやオーディエンスといった幅広いアートコミュニティが集うプラットフォームとして、新たな視点やアイデアの共有を促進します。本フェアでは、ギャラリーによる展示だけでなく、特設の展覧会やアートトーク、インスタレーションといったパブリックプログラム、そして日本各地の美術館と連携したオープニングイベントやアーティストスタジオ訪問などの招待客向けプログラムも併せて開催され、多角的なアート体験を提供します。

Tokyo Gendai 公式サイト: <https://tokyogendai.com/ja/>

Tokyo Gendai 公式 X: <https://twitter.com/tokyogendai/>

Tokyo Gendai 公式 Facebook: <https://www.facebook.com/tokyogendai/>

Tokyo Gendai 公式インスタグラム: <http://instagram.com/tokyogendai/>

■オフィシャル素材

https://dentsuprc.jp/closing_release

※Password: TokyoGendai2026

※画像を使用する際、フォルダ内のクレジット一覧に記載されているクレジットをご表記ください。

＜本件に関するお問い合わせ先＞

Tokyo Gendai 広報事務局 Eメール: press@tokyogendai.com

■ Appendix : 出展ギャラリー一覧

Galleries

ア・ライトハウス・カナタ (東京)、セyson & ベネティエール (サン・ティエンヌ、ルクセンブルグ、パリ、ジュネーヴ、ニューヨーク、リヨン、パネリ、東京)、ギャラリー サイド 2 (東京)、Gana Art (ソウル、ロサンゼルス)、カイカイキキギャラリー (東京)、KOSAKU KANECHIKA (東京)、KOTARO NUKAGA (東京)、ミヅマアートギャラリー (東京、シンガポール)、NANZUKA (東京)、Pace Gallery (ニューヨーク、ロサンゼルス、ロンドン、ジュネーヴ、ベルリン、ソウル、東京)、Sadie Coles HQ (ロンドン)、スペースアン (東京)、Sundaram Tagore Gallery (ニューヨーク、シンガポール、ロンドン)、タカ・イシイギャラリー (東京、京都、前橋)、TARO NASU (東京)、The Page Gallery (ソウル)、Upsilon Gallery (ニューヨーク、ロンドン、ミラノ、香港)

Hana 'Flower'

A2Z アートギャラリー (パリ)、AAIE (ローマ、香港)、Art of Nature Contemporary (香港、福州)、ARTCUBE 2R2 Gallery (ソウル)、AWASE gallery (東京)、CON_ (東京)、Dom Art Gallery (ドバイ)、Gallery Common (東京)、ギャラリー門馬 (札幌)、HARUKAITO by ISLAND (東京、熱海)、Jacob Arthur Gallery (ロサンゼルス)、JD Malat Gallery (ロンドン、ドバイ)、鎌倉画廊 (鎌倉)、LA BIBI GALLERY (パルマ・デ・マヨルカ、メキシコシティ)、Lett Thomas (オークランド)、女性の光 (ニューヨーク、ロンドン、パリ、メキシコシティ)、MAKI Gallery (東京)、Marco Gallery (大阪)、MISA SHIN GALLERY (東京)、MtK Contemporary Art (京都)、NOGADA (ソウル)、Nomadic Gallery (東京)、noon (アントワープ、ゲント、クノック)、Sofi Gallery (ベルガモ、ニューヨーク、上海)、STANDING PINE (東京)、Suppoment Gallery (ソウル)、タオス・ギャラリー・トウキョウ (東京)、THE HARTZ PROJECT (香港)、Verduyn Gallery (モレグム)、W-Galería (プエロスアイレス、マルドナド)、Wada Fine Arts Y++ (東京)、Yoshiaki Inoue Gallery (大阪)、YUMEKOUBOU GALLERY (京都、香港、パリ)、Yutaka Kikutake Gallery (東京)

Eda 'Branch'

一穂堂ギャラリー (東京、ニューヨーク)、みぞえ画廊 (東京、福岡)

Miki 'Trunk'

ART ON SPACE (仏山)、BANGKOK CITYCITY GALLERY (バンコク)、Boogie Woogie Photography (香港)、Curatorial Gallery (ロンドン)、Fabrik Projects (ロサンゼルス)、Form Photography Gallery (ディナール)、HART GALLERY (杭州)、John Szoke Gallery (ニューヨーク)、ザ・トルマン コレクション (東京、ニューヨーク)、UP Gallery (新竹市)、X Contemporary Art (長沙)

Tane 'Seed'

Chi-Wen (台北)、Double Square Gallery (台北)、Project Fulfill Art Space (台北)、TAEX (ロンドン)、Takuro Someya Contemporary Art (東京)